



大浜中だより

—保護者と地域の皆様への広報誌—

平成 29 年度
9 月号
掛川市立大浜中学校

—子どもにとっての「学びやすさ」とその成果—

本校では、昨年度から大型テレビ、電子黒板、タブレットパソコンなどの情報通信技術（以下、ICT と言う）を活用し「対話的・協働的な学び合い」の授業を進めています。ICT を活用すると以下の効果があります。

- ① 大型テレビや電子黒板に、図や表を拡大して表示するため、視覚的にも理解しやすくなる（わかりやすさ）。仲間とも同じ情報が共有でき、その時間も短縮できる。
- ② 手元にあるタブレットパソコン等で、必要な情報を必要なときに得ることができる。また、情報を組み合わせて考えることで、思考が広がったり、深まったりする。
- ③ 体育、音楽等の実技をその場で撮影し、見ることができるので、課題を瞬時に把握し、改善に生かしやすい。



「対話的・協働的な学び合い」の授業では、以下の取組を進めています。

- ① 多くの中学校では、昔ながらの一斉講義型の机配置ですが、本校では、仲間の表情が見やすく、さらに意見交換しやすいように机の並びを「コの字型」にしています。
- ② どの子どもも学習に参加しやすいよう 3～4 人の小集団での話し合い活動を多く取り入れています。また、英語では、ペア（2人）活動も活用しています。

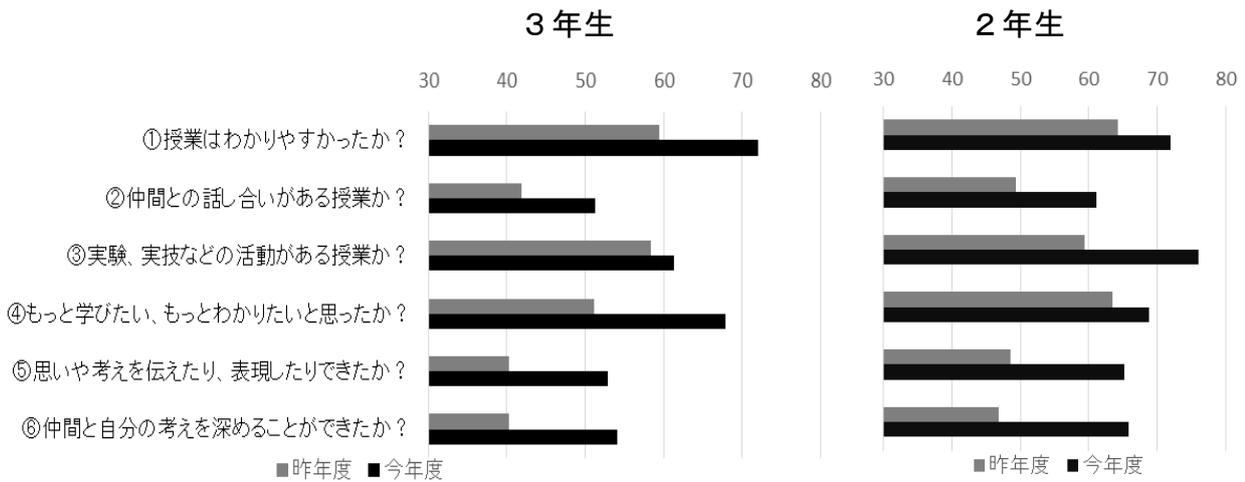


昨年度から進めてきたこの取組によって、「学び」に対する子どもの意識に変化が始まっています。昨年度の同じ時期より確実に数値が向上しています（裏面参照：生徒による授業評価）。

また、小6、中3生が参加する「全国学力・学習状況調査」でも国語の活用力をみる「国語B」の正答率が大きく伸びており、全国の平均正答率を上回っています。数学ABについては、まだまだ課題がありますが、昨年度と比較してみると、国語AB、数学ABともに大きく伸びていることが分かりました。（裏面参照：全国学力・学習状況調査）

なお、調査に参加した3年生には個票をお返します。詳細については、そちらを御確認ください。
(文責：堀内)

○生徒による授業評価（「5:当てはまる」と強く肯定する回答をした生徒の割合）



グラフは昨年度と今年度で比較したものです。（昨年度のデータは、2年生が1年のとき、3年生は2年のときのもの）

どの項目も軒並み向上していますが、特に以下2点は成果と言えます。

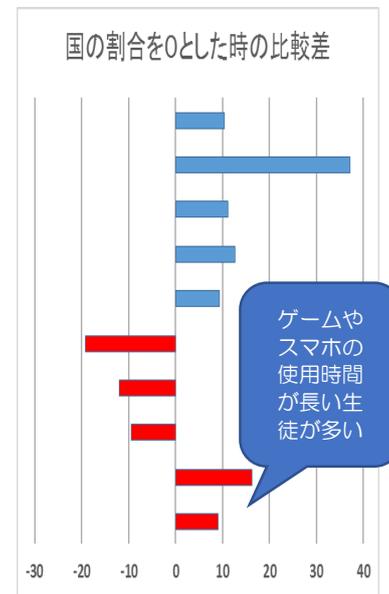
①授業が分かりやすかった（現2年生7.7ポイント増、現3年生12.5ポイント増）

⑥仲間と自分の考えを深めることができた（現2年生19.1ポイント増、現3年生13.8ポイント増）

○全国学力・学習状況調査（生徒質問紙の結果から）【3年生 4月実施】

「当てはまる」と回答した生徒の割合を国と比較したもの

| | 質問項目 | 国比較 |
|---|-------------------------------|-------|
| ○ | 朝食を毎日食べている。 | +10.4 |
| ◎ | 今、住んでいる地域の行事に参加している。 | +37.1 |
| ○ | 地域社会などでボランティアに参加したことがある。 | +11.2 |
| ○ | 学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある。 | +12.6 |
| ○ | 生徒間で話し合う活動をよく行っていたと思う。 | +9.4 |
| △ | 1日当たりの勉強時間（2時間以上） | -19.2 |
| △ | 家で学校の授業の復習をしている。 | -12.0 |
| △ | 家で計画を立てて勉強している。 | -9.4 |
| △ | 1日当たりのゲームの時間（2時間以上） | +16.3 |
| △ | 1日当たりのスマホ・PCのメール等の時間（2時間以上） | +9.1 |



全国学力・学習状況調査生徒質問紙の結果からは、上表のような表れが見られました。

よい表れとして、朝食摂取率、地域の行事やボランティアへの参加率が高いことなど、人との関わりを大切にした教育活動を、家庭、地域、学校が一体となって行っていることがうかがえました。

課題としては、携帯電話やゲーム機を触っている時間が長い生徒が多く、勉強時間が十分に確保されていないようです。学習の内容や方法についても課題が見られます。家での過ごし方、時間の使い方について学校と家庭が連携して改善していく必要があると思われます。